

【渡島森林管理署】 木造建築・我が署紹介！

渡島森林管理署は、北海道の南東部、渡島半島の中央部に位置する八雲町に所在しており、渡島総合振興局管内5町と檜山振興局管内2町の国有林約143千haを管理しています。管内には、秀峰駒ヶ岳を中心に大沼・小沼を含めた観光名所である大沼国定公園や北



現在の渡島森林管理署庁舎

海道南部地方を代表する原生的な天然林を有する狩場山、遊楽部岳等の高峰があり、麓には国土交通省が毎年認定する「清流日本」に何度も輝いた後志利別川等が流れ、雄大な自然景観を有した地域となっています。

現在の庁舎は、旧庁舎から500m程移動して、平成4年3月に竣工し、今年で30年を迎えています。規模は、木造一部二階建て延べ床面積560㎡で、八雲・大関森林事務所が併設されました。

新庁舎落成式は、同年3月26日、林野庁長官、函館営林支局長、地元及び近隣町村、業界関係者等が多数出席するなか新庁舎の落成を祝いました。

庁舎は、当時の函館営林支局管内十二署から出材された十三種類の樹種を使用し、特に玄関にはヒバ、スギ、カラマツ、ブナ、イチイなど各樹種による「木のレンガ」を使用した壁や事務室入口のカウンターには、当時の八雲町の木「カツラ」を使用するなど、木の温かみ、安らぎをふんだ



落成当時の函館営林支局広報「はこだて」

んに感じる、森林管理署の建物としてふさわしい木の良さを十二分に生かした庁舎となっています。



木のレンガ

庁舎内は、トドマツ構造用大断面集成梁を使用し、木の持つ力強さを表現、正面玄関は、カラマツの半丸太化粧板を使用し、地域の人も親しみやすい建物として工夫されています。



庁舎内のトドマツ構造用大断面集成梁



当時の八雲町の木「カツラ」のカウンター

庁舎のある八雲町は、日本国内で唯一となる日本海と太平洋に面する町としての水産業・養殖事業や酪農・農業が盛んで、多種多様な農産物も八雲町の魅力となっています。

管内には他にも、「かじめし」や「いかめし」、「男爵いも」など全国的に有名な名産品、豊富な海産物や乳製品もあり、観光でも勤務でも地域を堪能できることと思います。

最後に、渡島森林管理署庁舎は落成から30年を迎え、古さも目に付くようになりましたが、今後も地元の皆様に貢献できる森林管理署として業務に取り組んでいきます。